

令和7年度第8回 感染症発生動向調査協議会

令和7年11月19日

月番：川本委員、和泉委員

1 前月の感染症発生動向について（2025年第40週～44週・10月）

<全数把握対象疾患>

- ・1類の感染症は今回の対象期間にも新規の出現はなかった。
- ・2類については、結核が31例と多く、そのうち18例が結核患者、13例が潜在性結核感染症であった。
- ・3類については、腸管出血性大腸菌感染症でO157および型が不明のものがあった。
- ・4類については、今回E型肝炎、日本紅斑熱、レジオネラ感染症がみられた。
- ・5類については、久しぶりに侵襲性インフルエンザ菌感染症がみられた。アメーバ赤痢、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症、劇症型溶血性レンサ球菌感染症、侵襲性肺炎球菌感染症などがみられた。百日咳も以前としてみられた。その他に、後天性免疫不全症候群、梅毒（早期、無症状）がみられた。

(STI)

- ・梅毒は15例（早期顕症12例、無症候3例）の報告があり、女性は20歳代の若年者がやや多く、男性は20歳代から60歳代までの各年代で報告があった。本年累計では、対前年度135.0%と増加している。

<定点把握対象疾患>

- ・インフルエンザが例年よりかなり早く立ち上がりを見せている。
- ・新型コロナウイルス感染症についてはやや減少傾向にあると思われる。
- ・急性呼吸器感染症はやや増加傾向にも見受けられるが、RSウイルス感染症、咽頭結膜熱、溶連菌感染症、感染性胃腸炎など他の疾患は横ばいまたは流行がみられない。

(STI)

- ・性器ヘルペスウイルス感染症・尖圭コンジローマ・淋菌感染症は前々年・前年と比較して同様もしくは減少している。
- ・性器クラミジア感染症は 男女計、男性の症例が前年と比較して増加している。

2 検討すべき課題

- ・ワクチンに対する医学的に正確な発信が改めて必要？
- ・〈事務局から〉岐阜県におけるARIの検査状況について

3 情報提供（月番委員専門分野から）

- ・日本小児科学会と国立健康危機管理研究機構は、「百日咳患者の増加とマクロライド耐性株の分離頻度の増加について」においてマクロライド耐性百日咳菌 MRBP が拡大していることについて注意喚起しています。

https://id-info.jihs.go.jp/diseases/ha/pertussis/020/250422_JIHS_pertussis.pdf

<検討結果>